外国語教育メディア学会（ＬＥＴ）関西支部中学高校授業研究部会・
京都教育大学英語の教え方研究会　主催

２０１２年度　１月例会のご案内

日　時：　２０１３年　１月　１３日（日）１３：３０～１７：００

会　場：　京都教育大学　ＣＡＬＬ教室（１号館Ｂ棟４階）
（アクセスはhttp://www.kyokyo-u.ac.jp/から）

参加費：　ＬＥＴ会員・英語の教え方研究会会員　無料
京都外国語大学英語教育研究会会員　　３００円
学生　２００円　　一般　５００円

問い合わせ先：　西本有逸（京都教育大学）　　yuitsu@kyokyo-u.ac.jp
鈴木寿一（京都外国語大学）　j_suzuki@kufs.ac.jp

内容：

１３：１０～　受付
１３：３０　　開会

ラウンド・テーブル「英語教育学が栄えて英語教育が滅びる！？」
司会：京都教育大学　西本有逸

英語教育（実践）の不易流行。流行とは英語教育学の進歩であり、発展であると捉えたいものです。３０年の間に確実に英語教育学は進歩を遂げてきたと言えるでしょう。では、不易な部分はいかがでしょうか。不易という語の定義さえ難しいですが、より本質的な骨太な生命線と仮定しましょう。この生命線が細ってきていると感じるのは司会者だけでしょうか。今回はラウンド・テーブルと称して現職教員からの話題提供を踏まえながら、この生命線についてみなさんと考えたいと思います。

１４：４５　　休憩

１５：００　　再開

「英語授業の理想と現実――できること、やるべきこと」
京都府立山城高等学校　小野　仁

もしも、あらゆる制限や圧力から解放されて、自分のやりたい指導法で英語の授業ができる環境にいるとすれば、どのような授業をされますか。先生方は日々、さまざまな

制限や課題、各方面からの圧力を受けつつも、自分の理想の授業を実践すべく奮闘されていることと思います。

今回いただいた時間の中で、まず自分がぜひ実践したい授業である、音読をたくさん取り入れた授業を紹介します。なぜ音読なのかを説明するために、言葉を認知するメカニズムについて少し触れます。時間が許せば、さまざまな音読の方法をデモンストレーションできればと思います。

そして、そのような授業を実践するのに妨げとなりうる要因を挙げます。それらの要因をすべて取り去ることは至難の業ですが、それでもあきらめることなく克服しようとし、時にはうまく両立させながら、与えられた環境でどのようなことができるか、何をやるべきかを考えたいと思います。

そして、現時点での自分なりの答えとして、最近実践した指導例をお示しします。対象クラスは、(1)普通科Ｉ類(学力伸長コースではない)、(2)音読でなかなか声が出ない、(3)ペアワークが成立しにくい、(4)日本語訳を書くことで満足してしまっている人が多い、(5)文法の説明には耐え切れず眠ってしまう人が多い、けれども(6)基本的には指導に素直に従う、などの特徴があります。先生方が日々実践されている環境は、ひとつとして同じものはないと思います。しかし、今回の指導例をひとつのきっかけに、明日の授業をさらに良いものにするために情報交換や議論をし、有意義な時間を過ごせることができれば幸いです。

１７：００　　閉会

会場までのアクセス：
１）京阪電車利用の場合
・淀屋橋、天満橋、京橋からは、特急あるいは快速急行で丹波橋下車、普通あるいは
　準急電車に乗り換え、墨染駅下車（所要時間約４０分）。徒歩約８分。
・四条からは、普通あるいは準急電車で墨染駅下車（所要時間約１５分）。徒歩約８分。
２）ＪＲ京都駅よりＪＲ奈良線利用の場合
ＪＲ京都駅でＪＲ奈良線に乗り換え、普通電車でＪＲ藤森駅下車（乗車時間約８分）。徒歩約３分。
３）奈良方面より近鉄電車利用の場合
西大寺にて快速または快速急行に乗り換え、丹波橋下車。京阪本線普通あるいは準急電車に乗り換え、墨染駅下車（乗車時間約４０分）。徒歩約８分。

お願い：　最近、メイルアドレスを変更される方が増えておりますため、案内をお送りしても 100 名分以上が戻って来ます。今後、メイルアドレスを変更される場合は j_suzuki@kufs.ac.jp までお知らせください。

今後の予定：諸般の事情で日程・会場が変わる可能性もあります。

３月１６日（土）第１９回中学高校教員のための英語教育セミナー
　　１７日（日）　　　　　　　　〃　　　　　　於）キャンパスプラザ京都